

県中教研 社会部会だより

第 36 号

発行日 令和3年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 山田 智子
題 字 金山 泰仁 先生

単元全体を見通す

指導主事 岩崎 泰明

中学校での新学習指導要領の全面実施がいよいよ目前となり、「課題を追究したり解決したりする活動」が改めて重要視されている。また、学習指導要領解説においては「単元等、内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定すること」とされている。

本年度の授業研究では、単元全体を見通した学習課題を設定し、課題解決的な学習を通して資質・能力を育成するための授業づくりが数多く実施されていた。第64回中学校教育課程研究大会砺波地区、公民的分野「民主政治と政治参加」の学習では、アンケートによる生徒の実態把握や、前単元までの学習経験も踏まえ、単元を貫く課題として「国民の自由や権利を守るために、私たちは、どのように政治に参加すればよいのだろうか」を設定していた。住民としての自治意識の基礎を育成することをねらい、将来住みたい国の姿を考える、投票率を上げるための方策を考える、自分たちの政治参加の仕方を考えるなど、学習を深めながら繰り返し単元を貫く課題に迫るための問いや活動が計画されていた。このような単元全体を見通した学習課題の設定が生徒の主体的な追究による課題解決的な学習の充実につながっていくことを期待したい。

単元を構想する際には、単元全体を見通した学習課題を設定することに加え、既習の学びや単元での学びを踏まえ、生徒の発言や活動を予想して各時間の「問い」を吟味することが求められている。そのためには、生徒が単元の節々で単元全体を見通した学習課題に立ち返り、考えを深めていけるように工夫することが大切となる。どのように学ぶのかという視点を基に、単元全体を見通した授業づくりをすることを今後も大切にしていきたい。

(西部教育事務所)

セレンディピティ

部長 山田 智子

20代の頃、故有田和正先生の授業を受ける機会があった。教員が生徒として参加する模擬授業のような研修だったと記憶しているが、感嘆・感動の連続で、あつという間の50分間だった。先生の資料提示、「問い」によって、驚きや疑問から社会への好奇心がどんどん湧き起こり、楽しくて、ずっと授業を受けていたいという気持ちになった。授業が終わると一抹の淋しさを感じた。こんな授業だったら、生徒たちは、毎日学校へ来るのが楽しみになる。自分もこんな授業ができるようになりたいと強く思った。

30代の頃、阪神淡路大震災から復興した神戸に新しく設立された中学校での授業を参観した。JICAの職員の方を迎えて、生徒たちが温かい雰囲気の中で国際問題について真剣に考え、協力し合いながら、課題に取り組んでいた。震災からまだ10年程で、生徒の中には震災孤児も多くいた。「クラスメイトは、いざというとき自分の力になってくれる大切な仲間なんだ」という意識が、授業中の生徒同士のかかわり合いから伝わってきた。自分の力で生きていかなければならない現実を理解し、生きていくために必要な力を身に付けるため、必死で学習していた。学ぶことの本質をみた気がした。

40代の頃、国語科の合意形成の授業を参観した。社会科の授業にも活かしたら…と臨んだのだが、授業の終盤で思いがけず涙があふれた。生徒たちが共に悩み、考え、議論を重ね、苦勞して合意にたどり着くことができたときは、学びに向かう生徒たちの姿と教室の熱い一体感に感動した。

素晴らしい授業を参観させていただくなかで、刺激を受け、更なる意欲につながった。今年度の研究大会は、コロナ禍で制約の多い中、様々な工夫をしながら行われた。授業者や運営の先生方のご苦勞やご尽力に心から感謝するとともに、今後も私たちが共に学び合える授業研究の機会を大切にしていきたいと思う。

(富・岩瀬中)

第 64 回 研究

新 川 地 区

(下・入善西中)

(1) 研究授業

開沢佳弘教諭が、2年歴史的分野「開国と近代日本の歩み」の単元で、「イギリス・アメリカのアジア進出の共通点は何だろう」という学習課題で授業を行った。生徒一人一人が複数の資料を基に、欧米諸国がアジアに進出する目的について考え、その共通点を多面的・多角的に考察し、表現することをねらいとした。タブレットPCを用いることで、多くの資料を比較しやすくし、直接資料に書き込んで意見をまとめたり、発表したりすることができていた。生徒は複数の資料を比較、関連させながら共通点を見いだしており、資源獲得、産業革命の影響、市場獲得等の複数の視点から共通点を考えていた。

部会協議では、参加者からは、「ICT機器を自在に使いこなすことで、多くの生徒が意欲的に学習に取り組むことができていた。」「生徒が考えを発表するときに、根拠となる資料を示しながら発表することができるように支援していくことが大切である。」といった意見が出された。社会科の授業の中で、効果的なタブレットPCの活用方法について考えることのできる時間となった。



(2) 指導主事による指導助言

細野祐輔指導主事（東部教育事務所）から、今回の授業について、生徒に届く問いの設定の仕方や資料の選択について、全体計画を考えながら授業を組み立てていくことの大切さ等について指導助言をいただいた。また、新学習指導要領と単元ごとの評価規準について講義していただいた。「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力を育成していくことや単元や題材等を見通しながら評価場面を工夫していくことの大切さについて助言していただいた。

角丸 映至（下・入善中）

富 山 地 区

(富・興南中)

(1) 研究授業

本木健一教諭が、3年公民的分野で「なぜ、日本には複数の選挙制度があるのだろうか」という学習課題で授業を行った。本時に至るまでの過程では、生徒一人一人が日本の抱える課題を考え、それを基に模擬政党を結成し、選挙活動を行い、模擬選挙を実施した。その結果を踏まえ、小選挙区制、大選挙区制、比例代表制のそれぞれの選挙制度の長所と短所を考え、学習課題に迫った。

本時では、それぞれの選挙制度について「効率と公正」に着目して多面的・多角的に考察する学びにつながった。グループ活動では、ワールドカフェ方式を取り入れることで、自分の考えを相手に分かりやすく伝え、表現できるよう工夫する姿が多く見られた。



部会協議では、生徒が授業を通して選挙に対する関心をもち、主体的に政治に参加する態度を身に付ける機会になったという意見が多く聞かれた。

(2) 部会協議

部会協議では、生徒が授業を通して選挙に対する関心をもち、主体的に政治に参加する態度を身に付ける機会になったという意見が多く聞かれた。

根塚昌志主任指導主事（東部教育事務所）からは、対話的な活動では、比較して考えたり、選択・判断したりする場を設定することで、生徒が課題を解決しなければならないという必要感をもって臨めるようになるという助言をいただいた。

指導助言の中では、来年度から施行される新学習指導要領における「指導と評価の一体化」についての講話もいただいた。学習を通して、生徒自身が自分の中でどのようなことが高まったのかを自覚できるようにすることが大切であることや、授業ごとに思考や理解が深まっていく過程が分かるようにしたワークシートの活用について紹介していただいた。来年度から始まる3観点の評価を控え、「振り返り」の大切さについて改めて確認することができた。

城石 睦人（富・和合中）

大会報告

高岡地区

(氷・西條中)

(1) 研究授業

中山隼人教諭が、3年公民的分野「私たちと民主政治 ～住民として地方自治について考えよう～」の単元で「氷見市をよりよいまちにするために、私たちにできることは何か」という単元全体を貫く課題を設定し、本時は「私たちの住む氷見市をよりよいまちにするために、あなたが氷見市長だったら、まずどの課題から取り組むだろうか」という学習課題で授業を展開した。

コロナ禍でグループ活動の制約が大きい中で、それを補完する役割を、ICT機器の活用(1人1台のタブレットPCの使用、全体の意見共有に電子黒板の使用)にもたせようとする提案授業であった。



(2) 部会協議

部会協議では、「生徒の発表の際に、根拠となる資料を示しながら意見を述べる姿勢が身に付いている」「自分の立場を色分けすることで生徒の意見の動向が可視化でき、意見の交流を促す効果があった」等の意見が出た。一方、「提示のタイミングにより意見が左右される」「グループ活動が困難であるからこそより多くの意見を取り上げることが学び合いにつながる」等の意見があった。



細野祐輔指導主事(東部教育事務所)からは、氷見市役所との連携が主権者教育を充実させる工夫であったこと、生徒を選択・判断に導く課題が県の研究主題や副題を解明しようとする取組であったことを評価され、合意形成の場のもち方等について指導助言をいただいた。

また、来年度からの新学習指導要領全面実施を目前にして、指導と評価について、単元ごとの評価規準の3観点化の作成手順を中心とした指導講話をいただいた。 坂下 恵(氷・十三中)

砺波地区

(南・吉江中)

(1) 研究授業

前田将司教諭が、3年公民的分野「私たちと民主政治 国民として国の政治を考えよう」で、単元を貫く課題「国民の自由や権利を守るために、私たちは、どのように政治に参加すればよいのだろうか」を設定し、本時では「投票率を上げるためにどのような方策が考えられるだろう」という学習課題のもとで授業を行った。

導入で、他国と比較することで近年の日本の若者の投票率の低さを、実感させた後、「ただ単に投票率を上げることがよいのか。」という問いかけから、社会の一員としてどのような態度で政治に参加することが望ましいかを話し合った。前時までの知識や経験をもとに生徒が意見を交わして考えることで、政治に対する関心を高め、有権者として大切にすべきことに気付かせることをねらいとした授業であった。



部会協議では、「個人で考える時間を十分に保障したことで、多くの発想が出され、意見交換が活発であった」という意見が出た一方で、「話し合いで出された意見を全体で共有できなかったために、課題に対するまとめが曖昧だった。」等の意見があった。岩崎泰明指導主事(西部教育事務所)からは、課題解決的な学習における単元を貫く課題と本時の問いとの構造的な繋がりや話し合い後のまとめの時間のもち方等について助言していただいた。

(2) 指導主事による講話

岩崎指導主事から「新学習指導要領における新しい観点の評価規準」について話をいただいた。3観点の評価の進め方や、生徒が「どのように学ぶか」の見通しを評価規準に反映すること等、具体的に学ぶことができた。

高田 恭平(砺・庄西中)

射水市中教研社会部会・活動報告

射水市中教研社会部会では、長年取り組んできた地域教材の開発と活用の試みを継続しながら、主体的な学びにつながる学習活動の在り方に重点を置き、研究を進めている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合型研修ではなく、授業動画を撮影・共有したり、リモートでの協議会を開催したりと、例年にはない形の研修となった。

大門中学校の米萩鴻子教諭が、2年地理的分野「中国・四国地方～交通網の発展による地域の変化～」の単元での学びを生かし、「北陸新幹線開業が、地域間の人や物のつながりに与えたメリットやデメリットを説明しよう」という学習課題で授業を行った。

校区を走る北陸新幹線の開業による影響を取り上げることで、習得した学びを身近な地域に活用して考えようと生徒は意欲的に取り組んでいた。また、一人に一台ずつタブレットPCを使用するなど、ICT機器を活用した話し合い活動を取り入れることで、それぞれの意見を共有し、自分の考えを深める姿があった。



後日、リモートで行った協議会では「単元のまとめを地域教材で行う場合、既習事項の中国・四国地方の連絡橋の影響を活用した内容が含まれる工夫が必要である」といった地域教材ありきの学習ではなく、必要性を吟味しなければならないという意見が出た。



また、タブレットPCの学習効果として、この授業では「資料をカラーで配信できる」「拡大して読み取ることができる」「大量の資料を個人に配信することができる」という点で有効であった。さらに、「個人の作業画面を一覧として教室前面のモニター画面に映すことで、教師も生徒も進捗状況を把握することができていた」との意見が出た。

「新しい生活様式」の下での「主体的・対話的で深い学び」につながる学習活動や学習形態の工夫といった手立てについて、地域教材の開発、ICT機器の活用等、さらに研修を進めていく必要がある。部員同士が情報共有し、データベース化を図ることで、授業改善の効率を上げ、授業力の更なる向上を目指していきたい。

古市 大和 (射・新湊南部中)

高岡市中教研社会部会・活動報告

高岡市中教研では、コロナ禍の中、各部会で感染症対策を工夫し、研究を進めることとなった。各部会ではリモートで授業参観や研究協議会を行ったり、部会で立案した指導案を各学校で実践して成果と課題を確認し合ったりと、各部会で教科の特性に合った方法で研究が進められた。

社会部会は授業研究を研究の中心に据え、指導案検討では人数を絞り、研究推進委員と授業者の6名で行った。研究授業は密を避けるために多目的ホールを使用し、外部からの参観者も5名に絞り、さらにフェイスシールドを着用して参観するなど、感染症対策を講じての研究となった。

授業研究では、芳野中学校の川島健志教諭が「日本の諸地域 中部地方」の単元で「富山県の産業の発展に大きな影響を与えたものは何かを考えよう」という学習課題で授業を行った。授業では「コンセプトマップ」づくりを通して、富山県の産業の発展に見られる個別の事実の結び付きを確認した。そして、その結びつきに3つの視点(①自然環境や立地 ②交通網の整備 ③歴史的背景)を提示し、3色の付箋で色付けしていく活動を行った。産業の発展に影響を与えたものを視覚的に分かりやすく表示できるこの活動は、生徒同士で考えをまとめていく上で効果的であった。一方、3つの視点が上手く合わさって産業は発達しているという概念的知識に導くにあたって、班の意見をまとめる段階で「どの視点が大きな影響を与えたか」という、意見を1つに絞る活動になってしまい、生徒の問題解決の方向がぶれてしまうという課題が残った。

西部教育事務所の森谷信久指導主事からは「学習問題は生徒に届いているか」という点を大切に、「富



山県の産業の発展に一番影響を与えたものは何か」と順位付けすることを課題とする授業展開や、思考ツール等を活用し、生徒が主体的に取り組みやすい学習活動のもち方について指導助言をいただいた。

橘 恭幸 (高・芳野中)